

# 地域包括ケア時代の 薬局・薬剤師の役割



ファルメディコ株式会社  
大阪大学大学院医学系研究科  
生体機能補完医学講座  
医師・医学博士 **狭間 研至**

## 第14回 チーム医療の中での立ち位置を問い直す

### 薬剤師なしでも医療は進む？ 危うい状態にある薬剤師の立ち位置

医療はチームで行う。このことは、もう何十年も前からいわれてきています。私自身も、医学部で教育を受けたり、研修医としてトレーニングを積んでいく中で「医師一人では何もできない」と痛感してきました。看護師や薬剤師、また、理学療法士や臨床放射線技師などさまざまな専門職とチームを組んで、連携してやっていくことが大切だということは、業界全体としてコンセンサスが得られていると思います。と同時に、当たり前のことではありますが、医師である私がいなければ、医療は進まないことは自他共に認める揺るぎないものになっています。

自分一人では何もできないが、自分がいなければ進まないという感覚が、チーム医療の在り方を考える上では極めて重要なのではないかと思います。そして、薬剤師が、現状や今後にさまざまな懸念やジレンマを感じているのは、実はここにその問題点があるのではないかと感じるのです。

すなわち、薬剤師一人では仕事はできません。処方する医師もいれば、患者のケアや服薬をサポートしてくれる看護師やヘルパーがいなければ、薬物治療が成り立たないことは十二分に理解しています。では、その逆はどうでしょうか？ 薬剤師自身はともかく、他の医療・介護職や患者・家族にとって、薬剤師がいなければ、医療が進まないと強く認識されているのでしょうか。

もちろん、調剤は薬剤師のみが行うことになっていますし、薬剤師でなければできない質の高い服薬指導があることは事実でしょう。しかし、戦後長きにわたって、わが国の院内処方の医療機関では、薬剤師免許を持たないスタッフがいわゆる「調剤」を担当してきました。また昨今では、医薬品の調整やピッキングについては、さまざまな機械化が進み、医薬品の情報については、ソフトやハードのIT化が急速に進んだこと

により、薬を正しく、早く取りそろえ、その基本的情報や注意事項、用法用量等を説明するということは、薬剤師でなくても可能になってきているのではないのでしょうか？

医療に限らず、チームの中で活躍するには、「自分でしかできない何か」を持っておくことが重要です。確かに、医師も、看護師も、理学療法士も、診療放射線技師も、それを明確に持っているのではないかと思います。しかし、薬剤師については、この30年あまりの中で「薬剤師でしかできない何か」の範囲が急速に狭まってきてしまっており、そのことが、チーム医療における薬剤師の立ち位置や存在感を、少なからず危ういものにしていないかと思うのです。

### 専門性の礎である「薬学」を駆使すれば 薬剤師の役割は明確に

では、どうすればいいのか。私は、薬剤師の専門性は、当然のことながら、大学で学ぶ勉強の中にあるはずだと考えてきました。大学進学を考える高校生にとって、薬学部は医療系の理系学部の1つですから、大学受験までは、医師や看護師、理学療法士などと同じ内容を学ぶわけですが。大学卒業後に専門家となるのですから、薬剤師の専門性の礎は、大学で学ぶ「薬学」に立脚したものでなければいけないはずなんです。

「薬学」はどのようなものかと言えば、基礎化学や物理化学を基本として、薬理学・薬物動態学・製剤学など、薬学部でしか詳細に習うことのない知識のことを示すのではないのでしょうか。しかも、6年制に移行する前から医療薬学の充実が図られ、近年では薬物治療学も学んでいます。それらの知識を使って薬剤師でしかできない何かを発言し決断していくことができれば、薬剤師のチーム医療での役割が、今までよりも明確になっていくはずなんです。逆に言えば、今、薬剤師がチーム医療の立ち位置で悩んでいるとすれば、それは、薬剤師としての専門性が確立しきれなくなってきたからかも知れません。